

NPO☆Kyoken



## 研究会通信合併号

☆特定非営利活動法人教育研究所(問題行動研究会事務局) 90号 平成20年10月25日発行

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: [contact@kyoken.org](mailto:contact@kyoken.org)

金木犀の香りが街角を通り過ぎる秋がやってきました。皆様方におかれましてはいかががお過ごしのことでしょうか。

当、教育研究所では東京の研修会を前に8月15日、貧血から牟田武生先生が倒れ、緊急入院し末期胃ガンと診断され、22日、胃の3分の2の切除手術が行なわれました。術後は食欲もあり、抗がん剤治療を受けながら、現在は自宅にて療養生活を送られています。

会員、研修会へ参加された皆様方には、大変なご心配とご迷惑をお掛けしたことを心よりお詫び申し上げます。また、財政的には理事長ひとりで私財を投じて成り立っていた研究所は、8月末の支払い金600万円の原資が不足し、倒産の危機に陥りました。理事会では緊急に寄付を募ることが決定され、寄付の募集が親の会の名でOB/OG及び保護者に向けなされました。

寄付は9月末で7,112,988円の浄財が集まり、9月倒産は回避できました。緊急に寄付をしてくださったOB/OG及び保護者の皆様方、本当にありがとうございました。

これで赤字原因の宇奈月若者自立塾と夏の問題行動研修会はひとまず、打ち切りは回避できました。しかし、寄付金は一時しのぎにしかありません。継続した寄附をお願いするとともに、一層の経営努力と経営改善に努めて行かなければならないことが理事会で決定されました。

尚、今回の教研通信は研究会通信との合併号です。特定非営利活動法人の会員の方だけでなく、問題行動研修会にご参加された皆様にもお届けしています。

教育研究所は特定非営利活動法人であり、その運営は会員の皆様たちの会費、寄附によるところがかなりを占めています。従来の会員は保護者の方が中心で会員数は年間を通じて大きな変化はありません。研修会に参加される皆様が新しく会員として教育研究所を支援していただければ、また少しでも浄財による支援が集まれば、若者自立塾の運営並びに問題行動研修会の運営の負担が少しでも軽減されます。

教育研究所の活動が安定して運営できるためにも是非皆様方のお力添えをよろしく願いいたします。NPO会員へのお申込みは同封の申込書にご記入の上、教育研究所までご送付下さい。会員の方へは隔月で教研通信を発送させていただきます。

また、教育研究所では「教育研究所債」を発行し、教育研究所の経営の安定化、これからの新規事業への基盤として利用させていただきたいと考えています。

「教育研究所債」の申込をされると、問題行動研修会受講費の一部割引など様々な特典があります。詳しいご案内はご請求いただければ郵送させていただきます。

## —夏の研修会無事終わる—

### 『埼玉会場』

7月20日～21日、金子保先生・花輪敏男先生・牟田武生先生をお招きして開かれた埼玉県武蔵嵐山国立女性教育会館のワークショップは、各グループとも講義・事例研究を通しての討議は大変な盛り上がりを見せました。

今年の特徴は発達障害を持つ生徒を抱えた高校の先生方の参加者が多く見られました。保健室登校生徒の単位認定の問題をどうするのか、特定の教科に対しては能力が高く知的好奇心も高いが興味がない教科には授業にも参加しないアスペルガーと思われる生徒にどう対応していけば良いのか。

義務教育課程と単位の履修問題がある高校では、不登校の生徒の進級卒業問題や特別支援教育のあり方はどうあるべきなのか、真剣に討議がなされた。

虐待、育児放棄、発達障害、ひきこもり、不登校など、今日の学校や社会が抱える問題を年齢に応じて、どう具体的に取組んで行けば良いのか考えるワークショップでした。

### 『東京会場』

8月18日～22日、今年度で18年目になる教師&専門家のための問題行動研修会が我が国を代表する先生方をお招きして、国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれました。多くの参加者から声が寄せられましたその一部をお伝えしたいと思います。

☆ 菅野先生のご講演は、日頃、私たちが汗水たらして行なっていることをきちっと整理して話されて、とてもわかりやすく力をいただきました。

坂口先生の実践の上に理論が成り立つというお話にも、とても共感できました。

森田先生の「社会的人間の育成」という視点も、自分の中にあった思いを整理できてよかったです。

子どもたちに人間力をつけるために、一教育人として働きたいと思います。ありがとうございました。

こんなに一流の講師をお招きしているのに参加者が少ないのに驚きました。もっともっと広めて欲しいと思います。(岡山県小学校教諭)

☆ 問題行動研修会には昨年に続いて2回目の参加です。

昨年参加した際、これまで自分の中にあってもやもやしたものが晴れた気がし、また、学校現場をとりまく様々な問題に対して、講師の先生方がわかりやすく説明、解説していただき、随分、勉強になりました。現在、中学校の担任兼生徒指導主任という立場ですが、今回、学んだことを実践にいかしてみたいと思います。(大分県 中学校教諭)

☆ 渥美先生の講義はとくにADHD本人の側からみた気持ちなどとても勉強になりました。しかし、あれだけの具体的な内容でありながら、資料がなく記録が間に合わないというのはとても残念でした。

5日間インスピレーションが湧く、様々な角度からのお話がよかったです。(茨城県 教諭)

☆ 「プロジェクトK」梶谷先生の講演を聞きたいと思い今回の研修会に参加しました。たいへんわかりやすく、また、参考になるお話でたいへん感謝しております。私の職場でもIT化による弊害?も多々起こっており、指導に多くの時間を要しています。

今回お話を伺って分かったのは、もっと指導する側に勉強が必要であることです。我々も経験したことのない新しい社会で、スタートラインが同じであるならば、子どもの方が吸収が早い。大人は負けてしまう。負けていては効果的な指導はできない。たいへん有意義な夏期研修になりました。ありがとうございました。(愛知県 教諭)

☆ 今回の講座、大変参考になりました。金子先生の思い「一人の子どもでも救いたい」「子どもの成長のために」には熱く同意しています。そのために私たちは自分にできることを求めてこの研修会に参加しているのだと思います。

お話をはじめ聞くこともあり、大変、刺激的でした。2歳なら大きく変わる。では、6歳児からあずかる小学校現場では、どうすれば、いいものなのか?この続きを来年お聞きすることができるとありがたいです。(新潟県 教諭)

☆ 毎年、時間に都合をつけて、できるだけ参加したいと思っておりますが、今年は学校行事、出張等の関係で今年は1日のみの参加となってしまう残念に思っております。

講師の先生方がお話される内容はどれも実践的で必ず、そのいくつかは本校の課題と一致する事例があります。ここで学んだことを、9月から現場で生かしたり活用すると、いままでうまくいかなかったことが、すんなりといくことが多いようです。残りの4日分の講義についてはノートを利用して、現場の課題解決のヒントにしたいと考えています。来年の受講も楽しみにしています。(茨城県 教諭)

☆ 教育関係の内容だけではなく、行政・福祉関係のお話も聞くことができ興味深い内容だったと思います。地方でも連絡協議会が年数回程度ですが開かれるようになり縦横に連携が伸びていくような気配が見えてきたところ。実際に特別な配慮が必要な子に関わるようになると学校現場だけでは解決できない、乗り越えていくことができない壁を感じ、走りながらさぐるという毎日です。専門機関、福祉機関、医療機関の方々に教えをいただきながら、手さぐりのつたない実践の奮闘中なので、今回の内容は参考になるものが多かったです。

現在、特別支援学級未設置の公立小学校で特別支援コーディネーターをして4年目になります。校内委員会を立ち上げ、他機関との連携など学級担任をしながら取り組み始め無知と無力で何度もたたきのめされたとかという日々、毎年、この会場の研修会でエネルギーを注入してもらいました。他の県や地域でも同じような苦勞をしている先生方もいらっしゃるでしょうし、先進的な取り組みをしている方もいらっしゃると思います。公立小中学校の校内委員会やコーディネーターの設置率も非常に高くなっていると聞いています。大学の先生方の指導を受けながら研究を推進している学校、他機関との連携を図りながら実践している学校等もどこかにあるのでは…と考えます。そのような現場のノウハウを提供して下さる講義内容も考えていただけないかと思います。(青森県 教諭)

☆ 花輪先生のお話は大変わかりやすかったです。間のとり方、途中で飽きないように話して下さる冗談もとてもよかったです。発達障害と特別支援ことについてよくわかりました。(東京都 教諭)

☆ 募集に対して参加者が少なく運営面で厳しい面があると思うが、各分野の著名な方々の話を聞くことができとても勉強になった。運営面で厳しい面があると思うが是非継続してほしいと思います。(教諭)

☆ 倉本先生のお話の中には多くの症例があげられていて参考になりました。指導・カウンセリングの方向性に確信が持てるように思います。

渥美先生の話は発達障害の理解と支援の基本についてのものですが、再確認できたように思います。実は私自身が特別支援コーディネーターとしてそのような研修を受けてきたわけですが、この特別支援教育に関しては、その体系的な見方を何度も確認していかなければならないように思っています。(山梨県 教諭)

☆ 昨年、初めて参加し、ゆとりある会場でじっくりと静かに話を聴く事ができるこの研修会が気に入り、今年も楽しみにしてまいりました。他の出張日も重なり、希望の日に参加できないこともあったが残念です。昨年の7月下旬の日程が都合がよいのですが…人によって、それぞれでしょうから仕方がないですね。

全日程参加したわけではないので何とも言えませんが、全体的に問題提起に終わっている感じがあります。情報をつかむという点では最先端の情報、研究されているところを知ることができよいのですが、現場の教員が多いと思われるので具体的なアドバイスの仕方などききたいところです。

今日、初めて「キャリアコンサルタント」という言葉をききました。中学校に勤務していますが、直接「仕事さがし」という事に限らず、その子1人1人の適性を見抜きアドバイスし、希望をもたせる事の大切さを感じています。実際にキャリア教育的に動いている人の実践例がききたいと思いました。(神奈川 中学校教諭)

☆ 私は幼稚園教諭ですが、4年前に持った子供がADHDと診断され、それから発達障害にとっても興味を持っています。さまざまな講演を聞いてきましたが、やはり小学校や中学校の先生方が参加しているだけ、あってとてもわかやすく、受講させていただく事ができました。

多動や自閉、ADHDなど幼稚園は殆どの子が初めて子供達が社会生活(集団生活)を送る上で、なかなか見極めができません。うちの園のある市ではそういう研究をされている先生が園を見に来て、気になる子供の様子を見に来てくれます。その先生は「〇〇だ」とは診断せず「〇〇のけいこうである」と言ってくれるので、私達も親と面談したり、すすめる事ができます。こういう講演を聞くと、子供の接し方の参考になります。もう一度資料を読み直して、今後の指導の参考にしていきます。(神奈川県 幼稚園教諭)

☆ 色々な点からの話が聞け大変参考になりました。できることなら具体的な事例をもう少し加えた講座にしていただければ良いかと…高校においても発達障害の生徒が増え、学校で非常に苦慮しているのが現状です。特に私学が関西では不登校・発達障害の生徒の受け皿になっていることから対策が急務です。

(京都府 高校教諭)

☆ 埼玉会場と東京会場を受講させていただきました。

埼玉会場に引き続き、金子先生ありがとうございました。「不登校をなおす」「再登校させる」という先生の方強い言葉にまた勇気づけられました。継続相談を重ね、本人のモチベーションが高まるのを待つと言う学校出張相談の方法(当市では)に対して、そんな悠長なことしていたら、引きこもりを作るだけと、目の前の生徒にどう働きかけていくか自問自答しています。野々市町の取り組みすごいです。感心しながら聞いていました。私自身、目からウロコです。町全体を巻きこんだ活動に広めていったことに、特にパワーを感じました。

埼玉会場では牟田先生のグループで直接お話をうかがうことができました。今日、東京会場でもた牟田先生の講座を楽しみにやってきました。とても残念です。埼玉会場ではあんなにパワフルにご指導いただきまし

たのに…休み時間を返上して話を聞いてくださいました。(不登校の教室担当として、親担当、子担当、学校カウンセラー、学校担任との連携の難しさを聞いていただきました。) 全快をお祈りしております。来年度、また、ご指導下さい。よろしくお願い致します。(神奈川県 学校カウンセラー)

牟田武生先生への温かい励ましのメッセージがこの他に多数寄せられました。ありがとうございました。特定非営利活動法人教育研究所を守るために職員一同、会員、理事会、親の会、OB&OGのお力をお借りして、この難局をこころ 1 つにして乗り切りたいと思っております。職員一同皆様方には本当に感謝致しております。

### ◎ 夏の研修会 マンネリ化をどう脱皮するか！

18年間基本的な運営スタイルは変わっていない。勿論、当初は3日間であったり、東京会場だけではなく、大阪開催があったり、埼玉会場でワークショップが開かれるようになったりした。しかし、担当の行政官が講義をして頂いたり、一流の専門家の先生が講師になってお話しするスタイルは何一つ変わっていない。

大きな会場でゆったりと、一流の講師をお迎えして、じっくりと、今日の生徒指導を中心にした教育問題の解決の糸口を児童生徒の側に立ち探る。参加者を縛るような組織にせず、誰も参加できるように、という幾つかのコンセプトがあり、それを、主催団体の関係で、少ない予算とスタッフで行なうとすると運営スタイルに制限が起り、何年かするとマンネリ化に陥ることはわかっていた。

マンネリ化は弊害も生むから避けなければならない。しかし、このスタイルが好きなリピーターの先生が多いのも事実。世の中の流れの中で予算が削られ、自己負担の参加者も多くなり、先生方も夏休み以前とは違い忙しくなっている。ここ数年運営的には赤字がで始めている。どうすべきか悩ましい時が訪れた。

研修会の準備は会場の予約以外は、毎年、12月から始められる。10月、11月どのような内容にするかの企画が立てられる。無論、制限がなければ色々な企画案ができるが、コンセプトがある関係上限られてしまうのが現状だ。

未来への方向性は見える。全体講演と具体的な解決方法を探るワークショップと先駆的な取組みを行い上手くいっている事例発表と意見検討や交流会だ。しかし、実行可能な情報と講師陣等の人的資源はあるが予算がない。参加者の費用は出来るだけ、押さえたい。そのためには脆弱な主催団体を磐石な組織にしたいと考えている。今のままだと、理事長の牟田武生が倒れると研修会も終わる…。良い考えはないものか思案の毎日だ。多くの人たちのアイデアを募集したいと思っている。(研修会運営担当者)

## 書き下ろし 新連載 NPOが倒産寸前になるまでの背景 (1)

牟田武生

### 1、なぜ、この仕事を…

昭和46年、公立中学校の2年目教師だった妻(昭和61年死去)から、ある頼みごとをされた。

「あなたは教育の本や論文ばかり読んでいるけれど、その知識で私を助けてくれない。」

「……、私で何か役立つことがあるの？」当時、院生だった私は答えた。

「実は担任をしているクラスの子のことだけれど、入学して3日間は登校したのだけれども、それ以来休んでいるの！母親に話を聞くと、病気ではなく、小学校の4年生の時、いじめに遭ってそれ以来、登校しぶりが続いているとのこと、それでも、小学生の時は年に70日程度のお休みだった。

でも、中学生になってからはほとんど学校には登校していない。このままでは進級も出来ないかもしれない。場合によっては卒業できないかもしれないから困っているの！循環して学校に見える教育相談のベテランの先生に相談してみても、家庭環境の問題だろう。心配してもこう云うケースはどうにもならない。たとえ卒業できなくても、本人が招いた結果だから仕方がない。」というの！

「小学校の時のいじめが原因でないのですか？」というの

「いじめられる子にも何か問題があるのだから、いじめた子だけを非難できない」と、校長上がりのベテラン相談員は答えるの！役に立たないの！だから、自分で家庭訪問を始めたのだけれども、どんどん引きこもっていくだけで状態が悪くなるだけなの！私としては何とか彼の力になってあげたいの！そこでお願いなの！私ではなくあなたが家庭訪問して欲しいの！」

当時、私はヒモの立場、断るわけにはいかない。多分、精神障害の初期症状か神経症の何かだろう。もし、それらの問題がなければ、相談員の言う親の甘やかしだろうと思っていた。

### 2、この子はいったいなんだろう？

家庭訪問してみると、まず、驚いたことは、総檜作りの大きな立派な新築の家、40歳の若さでこの家を彼の父親は建てたという。中1の彼は南に面した12畳間の部屋で昼寝をしていると母親は告げた。家族は自転車屋を経営する祖父と祖母、ガソリンスタンド2店と自動車修理工場を経営する父と母、彼が長男で3人の妹たちがいた。

担任でもない私が家庭訪問しても会えないことは始めからわかっていた。母親の話しを総合して考えても、緊急に医師に繋ぐ必要もなさそうである。しかし、「会えなかったよ」と何の手土産なしに帰ったら、ヒモの生活はなくなってしまうかもしれない。だからと言って無理に部屋に入り会っても心を閉ざすばかりだと考

えて、妹たちの半ばボランティアで週二回の家庭教師をやることにした。

家庭教師といっても、1時間位算数や国語の勉強をみてやり、後は楽しくトランプやオセロ、5並べ、おひな祭りなど季節の遊びを妹たちとワイワイがやがや2階の彼の部屋に声が届くぐらいの声を上げて楽しむものだ。そこに私のねらいがあった。天の岩戸ではないが、そのうち彼が「何をやっているんだろうと興味を持って、部屋から出てくれるかもしれない」との思惑があった。しかし、そうは簡単には行かなかった。彼は私に来る曜日や時間になると、自分の部屋に閉じこもってしまうのだ。しかし、待つ以外にない。根気よくやる以外に方法が見つからない。

9ヶ月が過ぎた。妹たちと遊んでいるふすまが少し開き隙間から色白の少年の顔が見えた。私が声を掛けようか躊躇していると、一番末の小学校1年生の妹が「お兄ちゃん、お出でよ、楽しいよ」と自然に声を掛けた。彼は部屋にすうーと入ってきて、私にはにかむような顔をして礼儀正しくお辞儀をして末の妹の横に座った。婆ぬきは続き勝者が決まると、カードが兄にも自然に配られていた。自然な兄弟愛は凄い。

私の中には稲妻が走り抜けていた。この子は精神障害でも人格障害でもない。今までフロイトやユング、ロジャースの事例の中にはない少年が私の前に突然現れた衝撃だった。

彼との付き合いは、その後、40年弱続いている。

- ・子どもを理解しようとするならば、子どもの目線で考えよ。
- ・子どもは未完成であるが、大人も未完成、違いは子どもは完成に近づく未来を持っている。
- ・カウンセラーは子と親の仲介者で、子の気持ちに親に伝え、親子関係を改善せよ。
- ・不登校は長引くと引きこもりを誘発し、二次症状として人間関係のスキル喪失、学力や体力の遅れ、社会性の欠落、人間不信からくる関係被害念慮がおこる。
- ・生活リズムが壊れ昼夜逆転の生活に陥る。

彼は多くのことを学ばせてくれた私の先生のひとりである。

これらを防ぐためにはその子が抱えている問題など（例えば学習…学校に行っても長期間休んでいると勉強がわからなくなる）を具体的に解決してあげること、心の問題を解決するカウンセリングよりもケースワークをしながら、心の問題を解決する方が具体的で解決が早い。また、人間不信が弱まっていったら、仲間と一緒にいるのがグループ・ダイナミクスが働き解決が早い。

などがわかってきた。徒弟制度的な雰囲気がこの学者（研究者）の道よりも、実践から学ぼうと言うことで、24歳の時、これらの考えを元に研究所を開設した。

### 3、研究所を開設してみると

昭和47年1月に今まで住んでいた横浜市保土ヶ谷区の6畳一間のアパートを引き上げ、磯子区の洋光台駅近くの新築1戸建て住宅に引越した。その当時、洋光台は住宅公団が開発した分譲住宅と団地で開発された新興住宅地域であった。大阪の千里ニュータウン、東京の多摩ニュータウンと同じような計画住宅大規模地域である。商店街も学校も公園も何もかもが計画された街だ。駅前公団は高層団地になっている。12階や13階から見える人や車はアリヤマッチ箱のように見える。大人にとっては快適な住環境だが、自然がない無機質と思われるこの地域で生まれ育った子にどのような影響が出るのか、定点観測をするかのようなワクワクした気持ちも起こった。

開設と同時に妻も公立中学校教諭を辞め手伝うことになった。しかし、家賃、運営費、生活費などを稼がなければならぬ。教育相談がまだ定着していない時代に24歳の若僧相手に相談に来る者など、いる筈がない。でも、開設の資金をポンと出して、「牟田さんは大学に残るよりも、野に下りそこから研究を積み重ねた方が向いている」と言ってくれた。京都大学助教授で中国文学の第一人者のひとりで社会派現代作家のTK先生に申し訳ない。（当時の大学生なら先生の名は誰でも知っているが、その時、先生は癌で病床に臥せていた。そして、私を呼んで自分の名は出すなと云われた）

妻のコネで長欠児の相談と学習支援をボランティアでやりながら、当時、学習の遅れている子を落ちこぼれとマスコミは呼んでいた。その言葉に私は猛烈な反発心が起こった。学校ではその子の知能や性格、心理状態、家庭環境、学習歴を殆ど考慮せずに、一斉で一律の授業が行なわれる。子どもの理解力なんてバラバラだ。子どもが理解できたか、できないかの問題ではなく、単元に必要な授業時間が終われば、うち切れ、試験が行なわれる。そして、成績が決まる。その成績によって内申書が作られ、子どもの近未来が作れられていく。

教育の主体が子どもではなく、学校であり、教師である。そして、いわゆる学習に着いていけない子を「落ちこぼれ」と呼んだ。子どもの側に原因があるのではなく、むしろ、教育システムの問題なのだ。それを子どもの責任や親の教育不熱心に先生方はした。無論、その中には、今でいうLD、ADHD、高機能自閉の子も含まれていた。

それらの子を中心に夕方から学習指導を行い始めた。そして、知能検査、学習適応の性格検査、親子関係検査、学習検査を総合的に行ない相互関係の分析を行ない。その子に応じた学習方法を考えていった。そして、毎月1度は親との面談を行っていった。それらの子と関われば係わるほど、先生や親の無理解が子どもとの心の距離を広げていく。それを子どものために近づけていく工夫が、日常観察から見た子どもの所見やデータを利用した相談活動だった。私は親に子どもの気持ちを伝える代弁者であると同時に、子どもが抱えている問題と一緒に解決するための伴走者であった。

学校や教師、親を批判することは簡単だが、それでも、子どもが抱えている問題を解決することよりも、

子どもをさらに泥沼に追いやる結果になると感じていた。学習支援に関しても、各種の検査から見えてきた結果からその子の学力に応じた内容から始まり、学年に追いつくまでの幹の部分を中心に教える、その学年でしか学習しない内容や本人が生きていく上であまり活用しないような枝葉の部分は思い切って飛ばした。

学習遅滞児や長欠児童生徒（今の不登校の子）の相談や補習をしてくれる所が他になかったために、相談者は増えていったが、一人ひとりに応じるために大変な手間がかかり経営は火の車だった。そして、近所の学校からは「知恵遅れの行く塾」や「怠け者が行く塾」と言われるようになってしまった。いつの時代でも、差別や偏見は無知から起こるが、それは一般の人から言われはじめるのではなく、専門家やそれに近い人たちの発言で広まる事実が悲しかった。

#### 4、その当時の登校拒否（不登校）は地獄

学校でいじめを受け、級友が怖くなり学校に行きたくても行けなくなると、親にどうして学校に行かないのか責められる。例え、いじめがあって怖くて行かれないと言っても「そんな弱いことでどうする」「いじめがあるなら先生に相談してみなさい」と親はいう。先生に相談したら、先生はいじめた相手にいきなり指導をして「チクツナ！」と言われて、さらにいじめが陰湿で長期化していく。だから、誰にも相談できない。

親が先生に相談しても、その当時は「いじめられる子にも何か原因があるのではないか」といわれる。いじめられた子の孤立がどんどん深まっていく。ストレスから下痢、胃痛、発熱、頭痛などの身体症状が起き学校を休み始めると、病院で受診し検査を受けても結果が出ず、先生に「精神的な問題でしょう。」と言われ「そんな弱いことでどうするの」親に責められてしまう。親子関係は次第に悪化していく。休みが長くなっていくと、今度は学校の先生から「このままでは、進級が出来ない」「定期試験を休むと、内申書が悪くなり高校に行けなくなる」「卒業出来ないかもしれない」とプレッシャーを掛けられる。

親や先生の対応は「学校に行け！」という登校刺激としての対応が一辺倒であり、当時の文部省も登校拒否の原因を“本人及び親の問題としていた”その結果、学校に行けた子もいたが、行けないと「自分の気持ちをわかってくれないと、母親を責め家庭内暴力を起こすケースが非常に多かった。また、自分を必要以上に責め、神経症やうつ病を引き起こすケースもあった。登校拒否が長引くと、中学校では進級卒業問題が起こる。

これらの最終決定を下す校長によっては、中学3年生で原級留置にして最悪のケースでは16歳の誕生日を迎えると除籍処分になった。また、私立校では登校拒否になると、自主退学を勧め公立校に転校した。しかし、自宅近くの公立中学では、小学校時友人が在籍者としていたため、どうして転校したか問い詰められ学校に行きにくかった。そのため、親は引越し学校を変えるケースもあった。

義務教育課程で除籍になると、中学卒業資格がないから高校には行けず、仕事にも就くことができなかった。だから、教育熱心な親や先生ほど子どもに登校刺激を加えた。子どもは追い詰められ家庭内暴力を引き起こす。身の危険を感じた。親は戸塚ヨットスクールのような民間矯正施設に入れた。親に暴力を奮う子は矯正する必要があると考えたのだ。そこには子どもの人権を配慮するような対応はいっさいなく、子どもの意思に関係なく家から拉致監禁して施設に連れて行く、そして、暴力によって子ども達を管理した。そして、戸塚ヨットスクール、静岡の仏祥院、三鷹の不動塾で暴力によって子どもの死亡事件が起きた。

この流れは、最近でもニュージーランドでコロンブスアカデミー（今の横浜K2の前身）、愛知アイ・メンタルスクールなどでも起きている。また、名古屋の長田百合子がテレビの民放で取り上げられれば、上げられるほど、最近ではそのような施設が増えてきている。（次号に続く）

#### ◎ ニュース1

9月27日、理事会が開催され、継続した寄付のお願いとNPO債（特定非営利活動法人教育研究所債）が発行されることになりました。また、10月11日にNPO債発行の運営委員会が開催されました。

#### ◎ ニュース2

牟田武生理事長、今年度、厚生労働省「若者自立支援」個人の部門、11月23日厚生労働大臣賞を受賞いたします。山野ホール午後1時から（会場：山野ホール、東京都渋谷区代々木）

#### ◎ ニュース3

文部科学省スポーツ青年局スポーツ課委託の調査研究委託を今年度始めて受けることが出来るようになりました。この調査研究によるプログラム（JOB CAMP）は、平成20年11月4日～10日、平成21年1月13日～19日、2月24日～3月2日に富山県黒部市宇奈月温泉 AEH ビルで行なわれます。是非、参加ください。

#### ◎ ニュース4

宇奈月若者自立塾はニート脱出率、就労率は全塾(29塾中)両方とも第2位に輝きました。（財団法人社会経済生産性本部調べ）参加者の年齢が高い上にひきこもり年数が長いのに良くこれだけの実績を上げられましたとお褒めの言葉を頂きました。これも地元の企業の協力の賜物です。

#### ◎ ニュース5

他の塾では正社員になることが大変なのに、宇奈月若者自立塾ではこの秋、ニューオータニホテルとパナソニックに就職が決まった塾生がうまれました。これで一部上場企業に正社員入社した元塾生は5名になりました。全就職者の約1割が大企業に就職したことになりました。（一流大学より就職率の割合が良いのでは？）

理事長 牟田武生

## 1、 経営困難な状況を招いた原因と分析

- ① 平成 20 年になり、宇奈月若者自立塾（以下、塾）の入塾者が 9 名（H20、1 月から 9 月まで）例年の半分程度に落ち込んだ。これは全国的な状況（平均 3 名程度）である。また、自立する OB も多く OB の寮在籍者が少ない。この 2 つが経営不振の主原因
- ② 十分な資産がないのに AEH ビルの購入をして、資金繰りが悪化した。H21 年度末で（厚生労働省事業開始 5 年間）で、この事業も厚生労働省からの支援事業が終わり塾も経営的に自立しなければならない。（1 人あたりの塾生の訓練補助費は 9 万円程度）そのためにも、塾は寮運営を維持するために、何らかの生産財が必要であった。そこで社会保険庁所有（旧、うなづきホールサムイン、築 18 年、4 年前にリニューアル済み、土地 550 坪、建物 600 坪）を H20 年 1 月に 3980 万円（税別）で購入した。当初（H20 年は塾生 12 名、OB15 名で月 50 万の元金返済及び運営可能の見通し）
- ③ AEH ビルのお披露目の意味があった「日韓ひきこもり会議」はマスコミには注目をあび、TV、新聞等で大きく取り上げられたが、入塾には結びつかず。また、参加者も非常に少なく低調に終わった。（東京・横浜からの会員の保護者の参加はゼロであった）
- ④ 従来の通所型の対応では学校や社会復帰に時間がかかるオタク型が増えているので、そのタイプに対して、最低で 1 ヶ月程度の宿泊型の対応を行なってみると過去 3 年間でほぼ 100%の学校や社会復帰が可能となった。そこで、AEH ビルを使い不登校生徒の支援事業（高卒検コース、高校チャレンジコース、ネット依存対応など）を行う予定であったが、応募者がいなかった。（問い合わせ 1 件のみ）  
分析、オタク型のタイプは情緒混乱型に比べ、怠けの要素が強く、自己葛藤も殆どないので家族は本人が腰を上げるまで強く指導する必要がある。
- ⑤ 会員向けの宿泊（朝食付き一泊 4000 円も殆ど利用者なし）、企業向けの研修宿泊もゼロに終わり、AEH ビルはほとんど活用されずに 7 ヶ月が過ぎた）赤字構造の定着。
- ⑥ 夏の研修会東京・埼玉両会場の不振、原因は埼玉会場、高校生のインターハイとぶつかり会場が 7 月 20、21 日しか取れなかった。しかし、この日は休日と祝日でお泊り保育の幼稚園が多く、保育者の参加が少なかった。東京会場は都道府県レベルの教育委員会が財政難を理由に、他府県の研修や当該委員会の研修以外を認めない自治体が多くあった。
- ⑦ 財政事情は今日急に悪化したのは遠因がある。平成 2 年当時、教育研究所（以下、教研略）の財政事情と財団法人化をめざして、教研の親会（あしたばの会・教研支援の会）が設立され、800 万円近い寄付金を集めたが、教研（運営母体はその当時有限会社）の運営に当てられ、経営的には乗り切ってきた。その後、特殊法人に対する世間の風当たりが強くなり、新規の設立は困難になった。さらに資金が底を付きあしたばの会は 3 年あまりで解散した。  
財団法人目財としての資金集めだったので、帳簿上は NPO 教研設立（H15 年 12 月）に引き継がれた。NPO にとっては実質的には負債であった。その後も通所施設を継続して行ってきたが、子ども 3 人に対して先生 1 人の指導で経営を圧迫した。その分、子どもの状態は極めて良くなったが…。毎年赤字を継続し、累積赤字がふくらんでいった。経営は NPO が行なっていたが、NPO では銀行融資もままならず、理事長個人が負債をひとりで背負う形になっていった。
- ⑧ 経営困難な状況の中で私財を投じ、休日返上で働いてきた理事長が末期胃ガンによる貧血で倒れた。

## 2、 再建案

再建には多くの困難を乗り越える力が必要であり、それには善意ある協力者がいないと、不可能の状態である。

### ① 初期の対応

- ・ 教研を支えていた理事長が倒れたことより、支える者がいなくなり、急激に経営状態の悪化が進んでいる、倒産の可能性が非常に高い。そのためには応急的かつ緊急の対応が必要になる。そこで、考えられるのが、寄付を募る・NPO 教研債の発行・宿泊債（別名別荘債）（償還義務なし、5 年もの、10 年もの有）である。収支の経営のバランスが崩れている時に、将来への借金になる NPO 教研債の発行は二次的なものと考えた方が良く、発行に事務上の時間を要すから緊急対応には向かない。
- ・ NPO 教研の理事でもあり、富山の協力者であるフィール宇奈月のオーナーである安藤建二社長に甘え、秋の行楽シーズンの時、満員のためにフィールに泊まれないお客様を廻してもらい売り上げをあげる。（自主努力）
- ・ 会員に対しての企画もの「秋の行楽シーズン向けの旅行プラン」の提供や今年 11 月 23 日に行なわれる理事長の厚生労働大臣賞受賞パーティへの参加企画
- ・ 会員の宿泊への呼びかけ、企業への研修会場利用の呼びかけ
- ・ 対象者（不登校生徒・ひきこもり・ニート）への情宣活動とアプローチ（本業の推進）厚生労働省の体験入塾枠の利用、文部科学省スポーツ課の研究調査の活用など、富山県や黒部市との連携を強める。
- ・ 親会の立上げ
- ・ 教研内に対外的対応のマニュアルを作る。

### ② 中期計画（来年の春、以降動き出すための準備）

- ・ 初期の寄付集め（緊急な応急処置的な対応）から、脱脚し（NPO 教研の自主的な経営努力が必要）他の不登校・ひきこもりなどの自立支援する NPO を含めた支援資金（牟田武生基金 橋本顧問弁護士命名）を

- ・ 設立。企業や行政に呼びかけをする。著名人グループ作り（呼びかけ人）事務局親の会プラス教研
  - ・ 私立学校や塾・子供会等の施設の活用
  - ・ 大学生のゼミの活用
  - ・ 幼児教育者・教育者相手のワークショップの開催（金子保先生協力）
  - ・ NPO 教研債の発行
  - ・ 独自事業の展開（ゴルフクラブの組立てなど）対象者は軽度発達障害者を含む試験を受けてもアルバイト雇用も出来ない方を就職困難者に対して行う自立支援事業の開始。
- ③ 長期計画…牟田武生の回復具合によってまだ不明
- ・ 出来ればなるべく早く銀行への返済を終わらせたいと思っている
  - ・ 日・韓・中とのひきこもり会議と支援事業交流
  - ・ 文部科学省と厚生労働省の縦割り行政を超えた若者の支援事業（次世代育成）
  - ・ 地域経済の発展と都市と地方の子ども・若者の交流を通して人間関係のスキルの強化
  - ・ 図書館と不登校関係の CD ライブラリーの常設機関設置
  - ・ おとなの楽しみ（アウトドアの同好会を有志で作って楽しくやり、ひきこもりの子や不登校の子を巻き込む）
  - ・ 定年退職者が持つローテクをニートの若者に伝え技術の伝承（アジアでは必要な技術）

### 3、入塾者獲得のための活動の強化案

- ① 現在まで入塾者の募集活動はどのように行なわれてきたか。
- ・ パンフレットを作成する。そして、あらゆる機会を通して配布する。（講演会・研修会・説明会など）
  - ・ ホームページより
  - ・ マスコミを通じて（新聞社・テレビなど）
  - ・ サポートステーション、ハローワーク、保健所など、他機関にパンフやポスターを置かせて貰う。
  - ・ 口コミ
- ② 上記の活動をさらに強化し、安い経費で効果的にどのような情宣活動が必要か？
- ・ 中退者が多い単位制高校・定時制高校・専門学校への説明と担当者に対してパンフの配布
  - ・ サポートステーションとの連携の合同説明会に実施
  - ・ ハローワークの窓口職員に対しての「若者自立塾とは」の説明会の実施
  - ・ 黒部・魚津・滑川・朝日それぞれの市の民生委員・児童民生委員への説明会の実施（各市への働きかけ）パワーポイントを作り誰でもプレゼン出来るようにする体制の整備
  - ・ 富山市で県の後援を得て講演会と「不登校・ひきこもり・ニートを考える会」を作る。
  - ・ テレビ・新聞社でこの問題の特集を作るための働きかけ
- ③ その他の活動
- ・ 活動内容がひと目でわかるパンフ作り（イラストの多用）
  - ・ AEHビルがどのように利用されているかのパンフの作成（イラストの多用）
  - ・ 卒塾生の卒塾文集の作成（ホームページにも掲載）許可を得る。（匿名可）
  - ・ 体験入塾専用のパンフの作成（文部科学省スポーツ課でも同時に使える）
  - ・ 厚生労働省の監査のオスマギキと大臣賞をどう表示するか検討と公表
  - ・ 富山にも親の会の支部を作る。

### 4、会員及び寄付者・別荘債券者特典

- ・ カウンセリング（1時間）一般 15000 円、会員及び 10 万円以上の寄付者（以下高額寄付者）・別荘債券者は 10000 円とする。
- ・ グループカウンセリングを含めたその他の行事参加費は 2 割引
- ・ AEHビル宿泊費（一泊大人 1 名）、一般 5150 円（朝食なし）、会員 4000 円（家族を含め、朝食付）高額寄付者 3000 円（家族を含め、朝食付）、別荘債券者、管理費 2000 円（家族を含め、朝食付）とする。
- ・ 教研主催講演会特典者は無料、一般は有料
- ・ 特典者は教研通信の無料配布、図書会の利用可。

9月27日、理事会及び教研親の会資料その2

文責 牟田武生  
2008、9、26

#### 1、緊急特別号における寄付のお願いと報告

※ 皆様方の善意により、9月末の倒産は回避出来る見込みです。ありがとうございました。

平成20年9月26日現在 寄付金総額 4,607,000 円 寄付者人数 113名

（注）9月26日で確認できるもののみです。

#### 2、中期計画について

##### ① 寄付継続のお願い

所期の寄付目標は500万円であったが、引き続き寄付を求める。その際、第1回の親会では、教研OBや親から募



ると限定したが、一般まで枠を広げる（夏の研修会参加者も含めて）

理由

緊急の寄付のお金は平成20年4月以降の未払い金、約600万円の支払いの一部に当てられる。

その他に、平成20年3月31日現在の特定非営利活動法人教育研究所が神奈川県に提出した「平成19年度事業報告書」負債の部によると、

短期借入金 牟田武生 9,774,941円 久玉和昭 150万円(他、現金50万円)計2,000,000円 牟田光生 239,632円 未払い給与 3,341,660円 未払い費用 社会保険等 1,604,392円とある。現在9月末現在でもこの金額は据え置かれたままになっている。また、平成20年4月以降も未払い給与も続いており、緊急の借入金として、8月末に牟田由佳子から1,020,000円を借入した。

中期計画の中ではこれらの流動負債の一部を返済するために引き続き寄付の継続をお願いしたい。

そのための内部努力

これらの借金ができた理由の一つに給与問題と社会保険料が考えられる。そこで、牟田武生と久玉和昭は平成20年9月20日をもって退職することにより大幅に経費の削減につながる。

しかし、教研にとってこの二人は頭脳の部分にあたり、対外的な部分、法務局への様々な届出、文部科学省・厚生労働省への調査研究申請と委託受諾後の分析や報告書の作成、税務関係の処理、労働保険・社会保険の処理、神奈川県への届出、カウンセリングや講演会の企画運営、夏の研修会（問題行動研修会の企画運営など）を若い人には出来ないことが多い。そこで、牟田武生には理事長、久玉和昭には理事を引き続きお願いする。

久玉和昭は、退職後、しばらくは教研からの短期借入金返済＋必要に応じ分析・指導を時給扱い又はボランティアで協力してもらうようにお願いする。

牟田武生は年金＋教研からの短期借入金返済で暮らし、理事長職はボランティアとする。

負債を返済するために寄付金の募集以前に有限会社教育研究所所有の横浜事務所を6月に不動産屋に売却の仲介をお願いしたが、買手が9月末現在いない。現実にはサブプライムローンの影響を受け難しい状況にある。

## ② NPO教育研究所債の発行

5年償還（利子なし、宿泊優待券の発行、担保として、銀行返済後AHEビルとする）

「運用として、北陸銀行への返済資金とする」法的根拠については橋本弁護士に調べて頂く。

※ 同業者をみると、経営的には東京S方式、NS方式など、入塾者を抱え込み授業料を長期間取り続けるか、生活費を貰いながら、自前施設で働かせるタコ部屋方式が成功している。しかし「何のために運営しているのかわからない」だが、テレビやマスコミはそれらの団体を表面的に取上げ、宣伝の役割を果たしている。（マスコミの功罪）

※ 戸塚ヨットスクールや長田百合子方式、ひきこもり状態の子どもを親の依頼によって、深夜に拉致し（費用30万から50万）入塾させる（入塾費300万から400万）監禁、身体拘束や暴力によって従わせる（月謝20万から30万）

その結果、大人に対する不信感の増加、被害妄想、神経症の発症など起き、親子関係は最悪になる。（犯罪である）長田百合子が民放で大きく長期間取上げられ、全国でこの手の民間宿泊施設が増えた。（最近事件を起した実例、アイ・メンタルスクール、K2、丹波ナショナルスクール等、殺人、傷害事件が起きた）

教研をモデルした文部科学省民間施設のガイドラインの空洞化

※ 若者自立塾は厚生労働省のお墨付きになったが、上記団体も認定を受けているため評判が悪い。また、経営的には訓練費（人件費）は入塾の人数だけしかでない。（あたり前だが）しかし、ひきこもり・ニートが対象なので、入塾させるまでに大変な手間と経費が掛かか（人件費がでない）人数がなかなか集まらないが、施設やスタッフは20人の塾生に対応できるものを常に用意して、おこななければならない。たとえば、入塾しても、義務教育課程で不登校になり、長期のひきこもりだと学力、体力、人間関係性、社会的スキル（技能がない、社会的な常識がない）などがなくあり、さらに生活リズムの乱れや心理的な問題（被害妄想・主観的である・協調性がない・感情的で幼稚な思考）などがあり、社会人として成長させるのに多くの経費が掛かるが、3ヶ月27万円の国負担の経費で賄わなければならない。当然、主宰者の赤字になる。

※ 1月から3月までは8月末、4月から6月までは9月末、7月から9月までは12月末、10月から12月までは3月末にならないと国の訓練費は約半年近く遅れて入金される。そのため人件費を立て替える資金力が必要になる。子どもや家庭から支払われる費用は最低限の生活費のみである。

寄付金を募るためにはスローガンが必要

例えば、「誰でもが安心でき、社会的自立が出来る施設を！」とか「親子で癒され、子は社会的自立を支援する施設を！」とかにし、自分達のための保養所、経営も訓練内容もガラス張りのNPOをめざす。

### 3、長期計画

現在、考えている2案

① 負債の返済が終わり次第、寄付金総額と人数・NPO債を土台に自立塾座長で顧問でもある坂口順次先生にお願いし、(財)社会経済生産性本部の理事は経済同友会の方で大企業の社長でもあるので「若者自立支援」に興味ある企業のトップの方々を複数紹介して頂き、基金の資金集めにはいる。組織を磐石なものにするために…。将来、教研だけでなく、信頼できる民間施設(フリースクールも含め)・若者自立支援施設の認定や支援資金の補助を行う。

② 拡大NPO案

現在、会員100名程度だが、温度差はあるが実質支援者と見られる方は全部で400名程度はいる。この方達は全て保護者であるが、会員を夏の研修会の先生方まで拡大させる。特に研修会の参加者でリピータの方(すでに3回以上参加している方)は概数で250名程度いる。

さらに、牟田・金子両先生のワークショップ参加者でファンに近い人もいるのでその先生達にも会員になってもらう。そして、その中から、特別参与会員を募集し、1口、年2万円、5年間をお願いし、参与会員には当NPOが所有する保養所(AHEビル)をオーナー利用してもらう。(権利として10万円以上の寄付者やNPO債所有者と同じ特典)さらに教研主催行事の割引などを行い。マイ温泉、マイ施設の感覚でご利用頂きたいと考えている。例えば、2万×5年(5回)×400人と計算しても4000万円になり、これを返済の原資にする。勿論、若者の自立支援や老後の社会貢献に何かしたいと思っている一般の方でも参加できるようにする。

すぐ出来ること

今回、2回のたよりを450名(住所が不明になり戻ってきたもの、約50通)に郵送し、教研OBでベンチャービジネスを立ち上げた者もいる。この人たちに「親会だより」に廉価で自社広告を載せて貰う。また、教研のHPにリンクすることによって、彼らの事業を応援し、親会だよりの経費を削減させることにも繋がる。

卒業生の横のネットワークづくりをする。卒業生の意識として古い言葉の例えだが“戦友”意識が非常に強くネットワークを求めている。また、元職員の先生方のことも気にされている様子が強く伺える。

研究点

今のNPOのままで行くか、財団法人で行くか研究する余地がある。平成20年12月以降、今までの監督行政官庁ごとの許可ではなく、公益認定制度(内閣府)に変わるため申請が通り易くなる。

お詫び  
出席者の皆様方

本来なら、理事会、親会に責任者である牟田武生が出席し、御礼、報告をしなければ、ならないところですが、主治医より人の集まる場所への参加は、まだ禁止されており、出席できません。誠に申し訳ありません。この場をお借りして「お詫び」申し上げます。

平成20年9月27日

牟田武生

## 2008年「特定非営利活動法人教育研究所うなづきの活動案内」

・ 若者自立塾・・・3ヶ月の共同生活の中で、生活リズムの改善、人間関係のスキルを向上させ、ビジネスマナーを身に付け、様々な就労体験を通して、働く意欲を身に付け、自立することを目指します。当塾は、日本有数の設備、就労体験の豊富さ、温泉設備、ニューオータニホテルで12年間のシェフの経験がある専門料理人、有数の正社員雇用率、修了後の様々なフォローなど充実しております。

個人負担分（寮費）3ヶ月間、200,000円～300,000円、訓練費は国の負担（3ヶ月間270,000円）になります。年間世帯収入が400万以下の低所得の方は個人負担分3ヶ月間、150,000円～200,000円になります。（ご相談下さい）

・定員 20名

・ 宿泊型フリースクール・・・20年を越す通所施設の実績を基に民間施設「教育研究所」が生まれ変わります。今の不登校のタイプは通所型では長引くばかりで効果が上がりません。不登校への対応の基本は、不登校が長期間になると、本人の人生にその後、マイナスの影響を及ぼすために、なるべく短期間に再び不登校・ひきこもりにならないための対応が必要です。最近多い親子の共依存関係から離れ、自立することを目指します。

3ヶ月コース、6ヶ月コース、1年コース、高卒検取得コース、富山の県立・私立高校通学コース、地元中学転校コース、留学コース（カナダ、台湾、タイ、韓国など）、

子ども一人ひとり応じたコースを用意します。

費用、寮費、教育費、カウンセリングなど、月210,000円。（ケースワーク費用・留学費用は別途になります）

・定員 中学生6名、高校生年限の者10名。

・ ネット依存・・・ネット依存に陥ってしまった若者に現実社会の豊かさを学び、ネットに対して自己規制出来るようになるためには、共同生活の効果が非常に高いということが分かってきました。ネット依存の日本初めての本格的な治療コースです。プログラムは治療から学校及び社会復帰まで含まれています。状態に応じて3ヶ月コースと6ヶ月コースがあります。

費用、寮費、教育費、カウンセリング。月210,000円（ケースワーク費用は別途になります）

・定員 10名

・ 短期体験合宿・・・5泊6日の体験コースです。基本的には各コースの入塾のための体験合宿です。（年4回程度）55,000円、

・定員 6名

※ 人によって厚生労働省の入塾体験費用が適応できます。（詳しくは事務局にお問い合わせください）

・ 自立塾OBのフォローワーク

コース	内容	寮費(1ヶ月)
A	カウンセリング&ケースワーク+生活指導+就労体験+就職支援(全てを含むケア)	145,000円
B	就職活動&アルバイトの世話、ケースワークなど	100,000円
C	寮からの正規就労(3食付き)	70,000円
D	フィール宇奈月(従業員寮・個室)からの正規就労(食事なし)	35,000円

※ 寮費の中には、食事代、寮費を含みます。(Dコースは食事代別です)  
 その他に布団使用料月1,000円、駐車料月1,000円(別途)がアルバイト&就労組には掛かります。

・ 定員 20名

短期体験合宿以外の上記希望者は随時受付をしています。(但し、事前面接が必要です)

※ 各コースとも定員になり次第締切ります

・ 保護者のための研修会 (1泊2日)とグループカウンセリング(日帰り)

子どもや若者への対応や親としてやらなければいけないこと、子どもの再登校、社会復帰のためにしなければならないことを集中的に学びます。(年3回程度)18,000円

若者自立塾以外は合宿所として富山県黒部市宇奈月温泉「NPO教育研究所AHEビル」を使用。

**秋の企画**

のんびり温泉につかり、山菜鍋をつつく。ゆったりと流れる黒部の秋を楽しみませんか。

日時 11月14日(金)15日(土)16日(日)

(第一回目の企画は終了しました。詳しくは教育研究所HP宇奈月日記をご覧ください)

費用 ¥20,000

詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

横浜事務所・・・TEL 045-848-3761 Fax 045-848-3742

宇奈月自立塾・・・TEL 0765-62-9681 Fax 0765-62-1120

◎ 継続してご寄付を求めています

専用寄附口座

銀行 横浜銀行 上永谷支店 店番号 323 口座番号 1442822

口座名義 特定非営利活動法人 教育研究所 (寄付) 理事長 牟田 武生

郵便口座 00230-9-112182 特定非営利活動法人 教育研究所

## 若者自立塾の現地個別相談・説明会開催のお知らせ

現地説明会 日 程：平成20年11月30日（日）、平成20年12月14日（日）  
時 間：午後1時から午後5時まで 場 所：富山県宇奈月若者自立塾

横浜説明会 日 程：平成20年11月15日（土）、平成20年12月6日（土）  
時 間：午後1時から午後5時まで 場 所：教育研究所丸山台事務所

※ いずれも予約が必要、045-848-3761（教育研究所）0765-62-9681（宇奈月若者自立塾）まで電話予約してください

※ 自立塾については 財団法人 社会経済生産性本部 若者自立塾支援センター  
<http://www.jiritsu-juku.jp>をご覧ください。

## ★NPO教研会員継続手続きのお願い★

2007年度に手続きいただいた、NPO教研の会員資格が、3月末で終了致しました。つきまして、2008年度も引き続き会員となり、これまでと同様に教研の会員として、教研の活動を支持支援していただければと思います。

お手続きは、下記の口座に会費5,000円をお支払いいただければ結構です。その場合は、必ずご自身のお名前を入れていただくよう、よろしくお願い致します。

会費納入口座は 横浜銀行 上永谷支店（323）  
（普）1442815

会員の方には、

- カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円、
- 年5回程度の定期通信の発行
- 講演会などのイベントのお知らせ
- お母さんたちのミニ図書館の利用
- お母さんたちのおしゃべり会への参加
- 教育研究所温泉宿泊施設（AEHビル）をご家族で利用できます。（但し、少額寄付必要）  
（2008年会費は、2009年3月末まで有効となります）

また、教研の活動自体にご賛同いただき、支持支援の形で会員になってくださる方を募集しています。

### ★ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方（英語・数学・国語）

カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方。

時間講師募集中、高卒検程度の教科指導できる方。

技術をお持ちの方で、定年退職され、その技術を若者に伝え、若者の自立支援に役立ちたい方

## ☆お母さんたちの交流会のお知らせ☆

「毎月5～6人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」（卒業生の母より）

- ・同時に親の会ミニ図書館を開催。
  - ・会員の方ならどなたでも利用可。
  - ・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が300冊以上あります。ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。
- 毎月第4土曜日午後1時から4時頃まで  
NPO教育研究所横浜事務所にて  
参加希望者は教育研究所までお願いします



### ※ 11月～1月スケジュール

11月	4日(火)～10日(月)	ジョブキャンプ(第一期)
	14日(金)～16日(日)	秋の企画・宇奈月のんびりツアー
	15日(土)	横浜個別説明会 午後1時から5時
	23日(日)	牟田武生理事長 厚生労働省「若者自立支援」個人の部門 厚生労働大臣賞授賞式
	30日(日)	富山宇奈月現地説明会 午後1時から5時
12月	6日(土)	横浜個別説明会 午後1時から5時
	14日(日)	富山宇奈月現地説明会 午後1時から5時
1月	13日(火)～19日(月)	ジョブキャンプ(第二期)

## ◎ うなづきだより

山が艶やかな赤や黄色、橙色の紅葉シーズンになって参りました。

宇奈月温泉街は活気に満ちております。アジアから観光に来られる方も多く、「立山・黒部砂防の歴史」として、世界遺産登録に動き出してもいます。

さて、宇奈月自立塾がスタートして丁度3年になり、77名がこの塾を卒業していきました。

思えばこの3年間、本当に色々な出来事がありました…

一期生（今ではこの呼び方では呼びませんが、最初に入った訓練生）K君の面接に立ち会った時は「胡散臭い施設出身者なのね」と、そんな感じで見られました。

私自身も最初の一年はほぼ一人で立ち回り、四苦八苦の連続でした。

精神的にも嫁一人幸せに出来ない男が他人の世話、ましてやニートの就労の世話等出来るのか…と自問自答の毎日でした。

3年経って…

塾生の就労体験先やアルバイト、正社員での雇用等の出口の問題は大分解決してきたと感じております、卒塾後黒部市に住んで（もしくは宇奈月自立塾に住み）就職をしようと望むのであれば、必ず仕事に就けさせる自信はあります。

ただし、入り口（入塾）のつまづきは否めません。

若者自立塾全体の課題ですが、特に今年度に入ってから中々入塾に結びつかない、感じとしては症状（10年以上の引きこもりや精神疾患）が重いケースでの親の相談が多く、本人が入塾するに至らない事が非常に多いことです。

しかし、この3年間就労に向けての営業活動は様々な形で行って参りましたが、入塾での活動は割合が低かったかな、とも感じております。

今後は入塾に向けての様々な募集活動を行い、安定した塾生の確保をテーマに頑張りたいと考えております。

…まあ、こうやって書くと非常に非人間的営業的で好きではないのですが、やるべき事を行い、きちんと経営状態を立て直し寄付して下さった皆様方になんとか酬いねば！と気持ちは高ぶっております。

今、11月4日～10日までの期間で、「文部科学省・スポーツ青少年局委託青少年体験活動総合プラン」での研究委託として、「JOB Camp」を宇奈月自立塾隣、AHEビル（旧社会保険庁のホテル）にて行います。

いわば小型版自立塾で不登校・ひきこもりの防止やニート状態の若者だけでなく、ニート予防の実践研究を行うことを考えています。

卒塾生の中で「一度実家に戻ったけど今は上手く行っていない」という方がいましたら、もう一度、一週間ですが、頑張ってみませんか？

教研OBの方でもOKです！宇奈月のベストシーズンを楽しみましょう！！

また、こういった事業を展開して新規の入塾者を増やし、教研の経営の安定・青少年の雇用問題・田舎の過疎化阻止・温泉街の発展等に努めて行きたいと考えております。

宇奈月若者自立塾  
寮長 牟田 光生

## 親会だより（3）

本来は独立したペーパーを発行したいのですが、今回は教研にお願ひし、教研通信に掲載させていただきました。

教研通信（緊急号）を受け、急遽、お世話になった教研に恩返しの意味もあって任意団体に親会を作り、寄付金を募集致しました。短期間だったのですが、大勢の方より、多額の寄付金と温かい励ましのお声と牟田先生に対するお見舞いの言葉を頂き、大変ありがとうございました。

しかし、教研は一時的に凌ぐことが出来ましたが、まだ、まだ、経営的な危機を乗り越えておりません。継続したご寄附のお願ひと大企業からの寄附を頂くためには、不登校・ひきこもり・ニートの本人の声や保護者の声がどうしても必要になります。そこで、下記の要領で体験談を集めております。是非、ご協力ください。

不登校・ひきこもり・ニートの体験談、教研によって救われたこと、親や本人の力だけでは救われないこと、学校や社会の理解や協力が必要なこと、社会問題といいながら本質的な問題解決に向わないことなどお寄せください。

原稿枚数は何枚でもかまいませんが経費を削減したいためメールにてお寄せください。匿名でも結構です。期日は平成21年2月末日まで、郵送先はNPO教育研究所（〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20）

教育研究所親の会有志一同

## 編集後記

カンボジア復興のために日本のNGOが活躍しているニュースをNHKテレビで見た。

ニュースではカンボジアが20年ほど前のポルポト支配時に多くの知識人を含め、各方面の指導者が虐殺され、国民の中で30歳以下の人割合が60%を越えている。そのため多くの若者が学校教育や労働訓練を受けることを十分に出来ずに貧困の連鎖が起こっていると報告し、そこで活躍し始めたのが、日本のNGOで、古いミシンを集め、カンボジアに送り、そのミシンで若い人達に製縫技術を教え、社会的自立を支援している。

カンボジアの若者は野外に張ったテントの下でミシンを並べ、黙々とまじめに学んでいた。若者達は1日訓練を終えると1ドル相当を貰う。1ヶ月で25ドルの訓練費を受取り、それで家族を養っていけると報じていた。

財源は郵便局国際ボランティア預金の利息の一部がおそらく充てられているのであろう。その資金が充てられること事態には大賛成なのだが、多くの日本の若者が日払い派遣で一日10時間以上働いても、自分ひとりも生活出来ないワーキングプアの現状をどう考えればよいのか、若者の労働環境を見る限り、喰えるカンボジアより、喰えない日本の方が貧困に見える。

一方で好きなアニメ、ゲームを楽しみ、親のスネをかじり働こうとしない若者もいる。そんな若者は家を出ないで、働かないことをモットーにしているとも言う。親が仕事のことで何かいえば、暴力の脅しを行う。そんな子のほとんどが、親より身長も体重も恵まれている。

日本とカンボジアを比べることは直接出来ないが、何か社会の歪みが日本の場合、ひどくなってきたような気がするの私だけだろうか。毒舌を吐ける日々感謝！

(△)